

人のために豊かさや便利さを提供する
土木を、生活のなかに浸透させていくこと。
「DOBOKU×カルチャー」
では、私たちと土木の距離を縮めてくれる、
そんなコンテンツを紹介します。

第七回

『ワークウェア』



写真手前は、耐火性に優れた生地を使用したアウトドア用アウター。昨今話題の「#ワークマン女子」のレディース商品だ。奥は、おしゃれ作業着の草分け的ブランド「パートル」のメンズ作業服。高いファッション性が多くの支持を集めている。

建設現場や様々な作業現場で身につけてられている作業服。仕事でベストパフォーマンスを出すための必需品だが、この作業服が今、驚くべき進化を見せている。

これまでの作業服といえば、頑丈、汚れに強い、しわになりにくいなど機能性ばかりが重要視されてきた。ハードワークですぐに汚れたり、破れたりするため、消耗品というイメージも強

かった。また、地味な色合いが多く、オシヤレとは縁遠いと思う人も多かったのではないだろうか。

ところが令和の今、作業服は「ワークウェア」としてパワーアップしている。まずは、機能性だ。速乾や撥水、消臭・抗菌機能、帯電防止など、技能者のニーズに応じて様々な機能が強化されている。今や夏場のマストアイテムでもある電動ファン付きのものも軽量化が図られていくほか、無線通信技術を搭載し、スマホで操作ができるようになった。また、風量もアップするなど快適に作業ができるように進化している。

機能性がアップデイトしているだけではない。まるでファッション誌から飛び出したようなスタイリッシュなデザインワークウェアも急増中だ。デニム地やカモフラージュ柄、チェック柄などバリエーションも豊富で、細身のシルエットなど見た目にもこだわっている。血を想起させることから敬遠されていた赤色のワークウェアも登場するなど、カラフルな色合いも増えてきている。

長時間の作業でも快適に過ごせるように、生地の素材も進化。軽くて薄くて強度も高い素材やストレッチのきいた素材を採用したり、立体裁断を加えたりするなど動きやすさを追求。肌触りも良くなるなどストレスフリーな着心地も人気だ。

高機能でファッションナブルでコストパフォーマンスも高い。三拍子そろったワークウェアは近年、現場で着用する人たちだけでなく一般消費者からも

熱視線を浴びるように。普段着やアウトドアウェアとして二〇一八年頃からSNSなどで紹介されるようになる。瞬く間にトレンドとなった。現在では、女性やファミリー層をターゲットにした新業態のアパレル専門店がオープンするなど、販路も拡大している。

また、フォームルとは対角にあった作業服が新たな革命を起こしている。作業現場から営業や商談に向かう際、オフィスワーカーにとつて悩みの種だったのが服装問題。スーツと作業服をシーンによって使い分けなければいけない時、着替えを持ち歩くのも、出先で着替えるのも大変である。そこで、どちらの場面でも着用できる服として、スーツ型のワークウェアが誕生した。

見た目はスーツ。しかし、動きやすく、汚れても水洗いができるなどの機能性を兼ね備えている。作業現場でも商談の場でも違和感なく使えるため、各方面から注目を集めているほか、ユニフォームとして採用する企業も増えている。しわになりにくい素材を採用している。出張に持つていくというオフィスワーカーも。二〇一八年の誕生からじわじわと評判が広がり、東京駅の地下街やファッションビル、メゾジーンズ館など、販売店も増加中。その注目の高さがうかがえる。

機能性はもちろん、ファッション性や快適性に優れた令和のワークウェア。働く人々をサポートするためこれからはますます進化し続けるワークウェアから目が離せない。